

我が母校の卒業式にあたり、同窓会を代表してお祝いの言葉を述べさせていただきます。

卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

保護者の皆さま、心からお祝い申し上げます。

また、校長先生を始めとする先生方のこれまでのご功勞に対し、心より敬意を表します。

卒業生の皆さん、皆さんの同窓会入会を心より歓迎いたします。同窓会会員は皆さんを迎え、今や23,800人。同窓会は社会の様々な分野で活躍する同窓生の人的ネットワークを活用し、在校生の高校生活がより有意義で豊かなものになるよう、母校発展のためのお手伝いをさせていただいております。これからは先輩として、皆さんも体験された同窓生講演会の講師になる等、母校の後輩達のために同窓会活動に積極的に参加されることを期待します。

さて、今年は明治維新150周年と平成30年という二つの大きな節目が重なる年です。明治元年の1868年、封建社会から近代化に大きく舵を切った明治維新から続く明治・大正・昭和・平成という時代の流れの中で、これからの日本はどのようなものになり、その中で自分はどのように生きて行けばよいのか。この節目の年に、高校を巣立ち、新たな生活を始められる皆さんは、人生100年という新しい時代を、これらの問いと向き合いながら生きて行かれることと思います。

社会学者の見田宗介さんは、明治から平成までの日本の近代化の歴史を3段階式ロケットに譬えています。明治維新の目的は、国を豊かにし軍備を増強するという富国強兵で、一段目ロケットの「強兵」は昭和20年の敗戦で切り離された。2段階目ロケットの「富国」は敗戦以降の高度経済成長でぐんぐん飛んだが、昭和から平成に変わる1989年のバブル崩壊で燃え尽きた。2段階目ロケットで日本の「富国」は成し遂げられ、平成からの3段階目ロケットは、精神的な幸福を求めて水平飛行している、見田さんはこのように語られています。

皆さんが生きられる3段階目ロケット時代は、衣食住に不自由することが少なくなった反面、終身雇用制は崩壊し、大企業でも倒産する一方、社会のニーズに的確に対応する新規事業は急成長する、ある意味、なんでもありの自由で、且つ不安定な社会といえます。このような社会で人が生き残るには、社会が求める価値を身に付けていることが必要です。先天的な能力をベースに、個人の努力で修得できる知識・技術や判断力、対応力、そして健康、皆さんがこれらの価値を足立高校卒業後も切磋琢磨して身に付けられることを、切に望みます。同時に、自分はこの人生で何をやりたいのか、自分にとって幸福とは何か、もう一度自問自答していただきたいと思います。

最後に、私が実社会に出て初めて分かった事です、高校時代の友人、先生方との付き合いは、実社会でのものとは異なり、世俗的な利害・打算が絡まない、純真なものです。これから厳しい生存競争社会に入っていく皆さんにとって、高校時代の友人と先生は、心の安らぎを与えてくれ、時には厳しいアドバイスをしてくれる「宝物」です。足立高校での友人、先生とのご縁を大切にしてください。

それでは、4年後の2022年、私たちの母校創立100周年を、同窓生として共に祝おうではありませんか。

以上をもちまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠に、おめでとうございます。

平成30年3月8日

東京都立足立高等学校同窓会会長 金成秀幸